

瓦谷山



瓦谷山だより



発行日 2024年12月15日
発行人 (宗)真光寺
岡本和幸
印刷 現代社
編集 (宗)真光寺

問い合わせ先
(宗)真光寺
TEL 0438-75-7414
〇お寺HP
<https://www.shinko-ji.jp/>

vol.57

元旦に能登半島を襲った大地震に自然の脅威を思い知らされた二〇二四年も、早いもので師走を迎えます。昨年末の寺報に、今年は異例づくめの夏だったと書きましたが、それを凌駕する、まさに異次元の暑さに地球温暖化のスピードが加速していることをいやが応にも思い知らされた一年でした。地元農家の方々も、キュウリが早々に枯れてしまい、ナスやピーマンが花をつけられないなど、これまでとは比べものにならないような異変に危機感を持たれています。また、炎天下の農作業による身体への負担も話題になることが多かつたように思います。

三十年前に私が真光寺に入山した当初、月に一回本堂で落語会を開催しておりました。終了後の宴会では、地域のおじいさん、おばあさんのお話を聞く機会に恵まれました。皆さん故人となつてしまいました。が、従軍の体験や満州からの引き揚げの体験など戦中戦後の話や日々の農作業の話から始まり、今を生きていることの有り難さ、家族や親族、地域の人々と共に楽しく過ごせる幸せ、そして自然と共に生きるための知恵、人として生きることの意味や生き甲斐といった哲学ともいえるようなお話を飄々と語るお姿を今も懐かしく思い出します。生命の危機にさらされ、生活も苦しかったであろう苦難の時代にあつても互いに励まし合い、笑い合い、力を合わせて乗り越えてきた老境の方々の卓越した人生観は、私にはかりしれない示唆を与えてくれたように思います。

農家の方々は毎日空を見、山を見、木々を見、土を見、そこに息づくさまざまな生き物を見て、農作物が育つように苦心されています。そうして私たちの食卓に野菜が届けられているのです。今年のように酷暑の中で様々に工夫をして大切な作物が育つよう努力を怠らなくともうまくいかないこともありませぬ。次の年はその原因を考え、また自然の姿をよく観察し、最善を尽くして作物を育ててゆく、それこそが農業の本質なのかもしれません。

「看看法身無相相」

姿かたちの見えない世の中の有様、そしてそれを貫く天地の摂理をよくよく見ろという意味の禅語です。農家の方々の哲学的な人生観は、形がなく正解も見えない自然の法則を日々じっくり観察し、もつとよいものを作ろうと努力されてきた経験に培われたものではないかと思えます。

信じられない速さで時が過ぎ去ると知ってしまったら

どんな小さなことも覚えていたいと心が言つたよ

竹内まりや「人生の扉」より

かくいう私も老境に差し掛かり、この竹内まりやさんの歌詞が心にします。幸い大病することなく元気に過ごしてきましたが、最近はこちらに不調が出て通院することも多くなりました。青年期と比べて力が出せなくなり、仕事が遅くなつたことに苛立ちや焦りを覚えることもあります。が、同時に老いることの面白さも覚えてきたように思うのです。動けない分じっくり見て考えたり、緩やかに作業を進めていく中で、これまで積み重ねた経験から新しいアイデアが生まれてうきうきしたり、若いときには思いもよらなかつた視界が開けてきた感があります。

経済至上主義のつけとして地球温暖化が予想以上に進み、猛暑、台風、豪雨などの自然災害が激しさを増せば増すほど、これまで私たちが守ってきた棚田や里山が大切な宝物であることを痛感します。残りわずかな人生を考えると、それをどうしたら次の世代へ残していけるかが大きな課題であると考え、農業、林業を担っていこうという志を持つ地域の方々の環境保護を志す企業の方々へと引き継いでいけるよう里山・里田をできるだけ整備すべく、上総自然学校の活動を二十余年続けてきましたが、ここで一旦休止することといたしました。今後は自然保護地域への指定を視野に入れつつ、企業や民間団体との協業、協働を行えるように環境整備を行っていきたいと思えます。

本紙上でもご案内のように観音堂の位牌がいっぱいとなり、今後は菓



鐘楼堂に吊る2尺8寸の鐘

師堂仮祭壇への位牌の御安置となりませす。また貴重な御寄進を受け、鐘楼堂を建設いたします。桜の苑ではリニューアル工事を行っており、森の苑の樹木の剪定管理やアジサイロードの整備等、境内の管理や整備も進めています。長い年月をかけた少しずつ進めてきたこれまでの事業の集大成として、空を見、山を見、土を見、生き物を見ながら、できる限りの努力を続けていきたいと考えています。

合掌
真光寺住職 岡本和幸

鐘楼堂建設について

今般真光寺では鐘楼堂を建設する運びとなりました。入会当初より鐘楼堂の建設を強く望まれていた縁の会員石神よしみ様が今春惜しくもご逝去され、御遺言状には鐘楼堂建設と上総自然学校運営のためご自身の財産全額を真光寺に遺贈される旨の記載がありました。その御遺志を有り難くお受けし、一周忌を迎える来春に着工いたします。

鐘楼堂とはお寺の境内にある鐘を吊るす建物で、鐘つき堂、釣鐘堂などとも呼ばれます。音が十方によく響くことから、鐘は時報や災害発生の報らせから戦の合図まで幅広く用いられていました。寺院で法具として用いる鐘を特に梵鐘といいます。

徳川幕府支配下の江戸では寛永寺、浅草寺など十か寺が梵鐘をついて市中に時を告げる役割を担い、「時の鐘」といわれて大変親しまれてきたのですが、そうした実用的な面ばかりではなく、人々は神仏や亡き人に届けたい祈りや願いや思いを鐘の音に託してきたのだらうと思います。

太平洋戦争の際の金属不足に伴い、有名寺院の貴重な梵鐘を除く九割以上の鐘が国に供出され、武器等の軍需品に姿を変えたといわれますが、戦後になると失われた梵鐘は復興を象徴するように次々と再鑄されました。また広島、長崎をはじめとする各地に建立された「平和の鐘」は、戦没者の追悼と不戦の願いを後の世代に伝え続けています。もとより鐘はなかった真光寺ですが、このたび

誠に得がたいご縁を頂戴することとなりました。新しい鐘が皆様の祈りを乗せ、里山に響く日を心待ちにしております。

「鐘楼堂の概要」

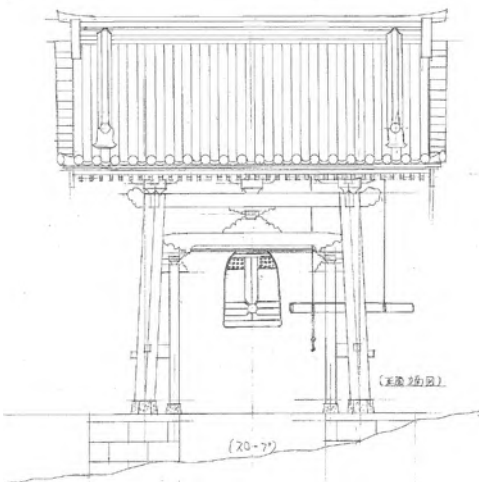
場所	山門西側
予算	3700万円
工期	2025年春着工 同秋竣工予定
梵鐘	口径2尺8寸 約84センチ
施工	織戸社寺工務所



● 建設予定地

「梵鐘」

今回の梵鐘は、当山の院代を務める大御祥敬師の自坊である。君津市万福寺より譲り受けました。大本山永平寺に納品されたこともある京都の老舗鑄物屋さんの作品です。



団体参拝旅行報告

九月二十九日より二泊三日で岡山・香川・徳島の曹洞宗名刹寺院全九ヶ寺を巡る真光寺団体参拝旅行を行いました。

今回一番の目的地、岡山県小田郡矢掛町にある曹洞宗舟木山洞松寺をご紹介します。山陽の古禅窟といわれる洞松寺は、創建は飛鳥時代の頃とされ、中期に一時衰退したものの、室町時代に猿掛城主庄駿河守の帰依を受けた喜山性讚禪師が、師の怒仲天闇禪師を勧請開山として迎え中興開創されました。歴代の住職により多くの末寺が開かれ、本末寺四十二ヶ寺、門葉寺院千余ヶ寺といわれる喜山派の派頭寺院です。

平成二十二年より現在の住職 鈴木聖道老師が堂頭となり、専門僧堂として修行道場を開かれ、以来国内はもとより世界各国より多くの雲水が集い修行に励んでいます。

鈴木老師の入山当初

お寺は老朽化で多々痛んでいたようですが、天井に開いた穴も自身で修繕され、少しずつ伽藍を整えられたとのこと。どことなく真光寺に似ているのではと、一度拝登したく、今回の四国巡りとなりました。

真光寺住職が同行するこの団参旅行は、一般旅行では立ち入れない建物やお堂、重要文化財の拝観、各寺院御住職による諸堂案内の他、時には大変手厚いおもてなしを受けることもある旅です。

今回ご参加の、縁の会会員の黒崎勳さんより旅の寄稿を頂戴しましたので掲載させていただきます。



洞松寺本堂

岡山・香川・徳島

曹洞宗名刹めぐりの旅

真光寺 縁の会会員 黒崎 勳

今年の旅行は九箇寺巡りと、檀信徒同志の交流を深めることと伺い参加いたしました。

参加者は全部で二十二名、真光寺さんから四名、一般参加者は十八名（女性十六名、男性二名）です。

一日目は羽田から一路、岡山空港へ。バスで矢掛町の曹洞宗洞松寺に参ります。かなり古いお寺ですが、現在は曹洞宗の専門僧堂で全国をはじめ海外からもたくさんの方々が来日し、修行をしています。ブラジル、スペインなど国は多岐にわたっており、当日は私たちを出迎えてくれたブラジル人僧侶が、日本語で自己紹介してくれました。

多くの外国の方が、このように日本で禅の修行をしていることを知り、正直驚きました。

本堂での法要の後、洞松寺ご住職より修行道場として開いて今日に至るまでのご苦労をされたお話が聴けました。その後、本堂から伽藍を移動して大広

間へ。ここで修行僧により抹茶が振舞われました。こちらは作法の心得もなく大慌てです。立派な椀に鮮やかな抹茶の緑色が印象に残っています。

境内の緑の木々と、抹茶のおもてなしに、非日常を感じたひと時でした。

次に、倉敷市玉島の圓通寺です。かの良寛和尚が十数年修行した寺として有名です。

この後、児島と坂出を結ぶ瀬戸大橋を渡って讃岐、弘法大師生誕の地である善通寺へ参ります。四国八ヶ所霊場の七十五番札所です。今日の宿は宿坊で、夕食は精進料理です。

二日目。宿坊の朝は早く、六時に御影堂に集まりお勤めです。善通寺ご住職の読経と説法の後、皆さんで般若心経を読み上げました。

次は八十番札所の国分寺です。聖武天皇の勅令で全国に建てられた国分寺のうちのひとつです。

その後、高松市中山町の曹洞宗報四恩精舎を訪ねます。ご住職の野田大燈さんは、約五十年前に一念発起し、不登校児や引きこもりなどの若者を支援し社会復帰へ導くための「喝破道場」を開きました。標高四百mの山を切り拓き、錬成道場や寮などを整備し、若者たちを受け入れてきました。そこでは、皆で共同生活



をしています。今日の最後は、源平の合戦場、屋島にある屋島寺です。八十四番の札所で、開創は鑑真和上と伝えられています。車窓の景色を眺めながら今日の宿、琴平温泉へ向かいます。宿の琴参閣に荷物を置き金比羅さん詣です。御本宮まで

の石段七百八十五段を

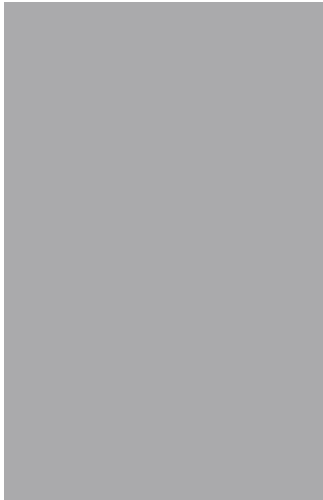
登ります。参道の賑わっている土産物屋を見ながら、はじめは順調でしたがやはり年には勝てず息切れしながらやっとの思いで登り、参拝できました。外国からの観光客もたくさん見受けられました。

夕食のビールの一杯の味は言うまでもありません。料理も豪華です。箸が進むにつれ酔いも手伝って話が弾みます。元気な笑い声もあちらこちらから聞こえてきます。盛り上がった宴会風景は想像通りでした。

三日目。はじめは八十八番札所の大窪寺へ。四国巡礼の結願のお寺です。次は一番札所の霊山寺です。暑い中、歩き遍路も見受けられま

す。

最後のお寺は徳島市の丈六寺です。御本尊の聖観世音菩薩座像は、木造で高



さ一丈六尺と荘厳です。寺には多くの文化財、宝物があります。市の担当者から詳しく解説していただきました。

ここで、お寺巡りは予定通り終わり、徳島空港から羽田へ無事帰途に着きました。台風も遠ざかり、天

候に恵まれて楽しく旅ができました。これも一重に仏様の御加護かと。最後になりましたが、真光寺の皆様、お世話になりました。合掌



鳴門山展望台より鳴門海峡を望む

第二十二回梅花流千葉県奉詠大会

十月二十二日、隔年で行われる梅花流千葉県奉詠大会が木更津市かずさアカデミアホールにて開催されました。今回の梅花流奉詠大会は、神奈川県横浜市鶴見区にある大本山總持寺を開かれた太祖瑩山紹瑾禅師七百回大遠忌慶讃法要の一環ということで、奉詠する曲はすべて瑩山禅師に因んだ曲でした。

真光寺梅花講からは五名が参加。その他県内七ヶ寺の梅花講と合同で登壇し、『太祖常済大師瑩山禅師誕生御和讃』という曲を奉詠しました。登壇しての奉詠は皆さん緊張ぎみでしたが、奉詠後、観客席からの盛大な拍手が起ると、達成感から笑顔が溢れました。



かずさアカデミアホールにて。真光寺梅花講は1番目に登壇。

縁の会総会報告

十一月三日、第十三回縁の会総会を開催いたしました。

総会当日の様子

台風の影響で前日までは土砂降りの空模様。天候が心配されましたが、当日は晴天に恵まれ、総勢百名を超える皆様にご参加いただきました。静寂に包まれていた境内は開式の時間が近づくと



縁の会総会当日朝の境内。



早朝から野菜を買い求める会員の皆さん。



受付では記念品の御朱印帳をお選びいただきました。

につれ続々と大勢の方々が集まり賑やかに。お堂やお墓へお参りをする方や季節の野菜などを買求める人達で活気に満ち溢れていました。

参加された皆様への記念品として、今年

はシャ

ンテイ国際ポラン

ティア会オ리지ナルの御朱印帳をご用意いたしました。

午前の部

午前は書院にてご本尊様へのご挨拶の法要と月例供養及びのぼり旗奉納者祈禱を執り行った後、住職から今年行った事業や今後の計画、会計収支について報告しました。事務局からは樹木葬墓苑お参りのご案内や墓苑管理について説明し、昼食となりました。



真光寺の事業について説明する住職。

午後の部

午後のチャリティ寄席は、和妻師きょうこさんにご登場いただきました。軽妙な寄席ばやしの音楽に乗って鮮やかな振袖姿のきょうこさんが次々と繰り出す日本伝統の奇術「和妻」の妙技に、皆様驚嘆のご様子でした。終演後に寄せられた募金はアジアの教育支援に活用されます。最後にお楽しみ抽選会を行い、総会は無事円成しました。



きょうこさんの和妻。



昼食後。境内で自由に過ごされる参加者の皆様。



総会の締めくくり。お楽しみ抽選会。

縁の会会員の皆様へのお知らせ

● 樹木葬墓苑内樹木の伐採

樹木葬墓苑一期、二期、三期内で樹木が密生し過ぎていて、または樹木自体が弱っているなどの問題が生じている場合、樹木の伐採をいたします。(十二月～二月) 今回伐採対象となる樹木には目印としてピンクのテープが巻いてあります。墓苑の環境保全、危険防止、樹木類の維持管理のための処置として行いますので、ご理解のほどお願い申し上げます。

なお、白などほかの色のテープが巻いてあるものは、強剪定、移植の対象です。

● 墓苑供花代行のご報告方法

ご希望により、樹木葬墓苑各區画の墓碑周囲の花植え代行を承っております。お申し出があれば、そのご報告として花植え後の状態の墓碑の写真をお送りしています。

お送りする方法は、ラインまたはメールのみとさせていただきます。ご希望の方は本誌の11ページにラインのQRコードがございますので、読み込んでうえご連絡ください。

● 観音堂(位牌堂)への位牌安置の終了

現在、会員の皆様のお位牌のある観音堂には、ほどなく安置の余地がなくなります。来春以降、授戒なさった方のお位牌は順次、薬師堂の位牌壇に安置いたします。

薬師堂は専用の位牌堂ではございませんので、各種法要やご法事中はお参りを少しお待ちいただくこととなります。ご了承のほどお願い申し上げます。

上総自然学校(里山再生活動)

上総自然学校活動休止のお知らせ

いつも上総自然学校の活動を応援していただきありがとうございます。里山の再生と共存をテーマに活動を始めてから早いものでもう二十年になりました。二枚(千平米)の田んぼから始まった米作りも、地元住民や上総自然学校の考え方に賛同し、活動に参加してくださった多くの方々のご尽力もあり、今では開墾した田んぼの面積も三町歩(三万平米)を超えるまでになりました。

元々動植物の専門家より上総自然学校活動地の希少性を指摘されていたこともあり、田んぼの開墾や山の整備が続いていると植物、昆虫、動物など多くの貴重な生き物が姿を見せるようになってきました。そんな貴重な環境について多くの方々に発信し、活動に参加していただきたく、米作りや自然観察会といったイベントを一年を通して開催して参りました。認知度が上がるにつれて参加者の数も増え、また研究や調査、卒業論文の題材にされる方々もいらっしやるようになりました。

そのような不特定多数の方が多く来場される中で、活動地の安全性に様々な問題が生じてきました。近年あちこちで問

題になっているナラ枯れによる倒木、台風やゲリラ豪雨による水路や路肩、崖の崩壊。害獣も増加傾向にあります。また、トイレや水道が無いなど設備面での不備も以前からの課題でした。このような状況では皆さんに安心して活動に参加していただくことは難しいと判断し、しばらくの間上総自然学校を休止し、活動を再整備していくことを決めました。お寺の業務の合間を縫っての整備作業となりますのでいつ再開できるかまだ見通しはつきませんが、全ての方が安心して活動できる安全なフィールドを整備してまいりますので、今しばらくお待ちいただければと存じます。また里山で皆さんとお会いできることを心より楽しみにしております。



イベントだより

稲刈り (九月八日)



この風景をいつまでも残したい。



背丈よりも高かったってなんのその！



親子で自然に触れるのも貴重な体験。

収穫祭 (十月六日)



焚き火で焼きマシュマロ。



お昼の後は緑米の稲刈りです。



手ぬぐいにもサンマが泳いでます！

一年間の作業の集大成となる稲刈りイベント。実際にお米が皆さんの口に入るまでにはいくつもの工程がありますが、とりあえず一段落です。作業をひたすら頑張る子、田んぼの生き物に夢中な子、それぞれ感じ方や楽しみ方は色々ですが、大きくなってもここで見た風景が少しでも心の中に残っていてくれたら嬉しいです。

今年の実りと収穫に感謝する収穫祭。一年間頑張ってくださった参加者の皆さんへのささやかなお礼として恒例のサンマも登場です。今年は参加者のサンマ焼き奉行に美味しく焼き上げていただきました。他にも、稲穂をその場で油で揚げたお菓子や焼きマシュマロなどを皆さん思い思いに楽しんでおられました。

【連載】西上総風土記

第2回 上総の畔蒜と対馬の阿比留

井口 崇

私は今年の春先に、かねてからの念願であった対馬を訪ねた。対馬は長崎県の離島で、対馬海峡（最狭部で約50km）を隔てて大韓民国（韓半島）と隣り合う国境の島。この地理的な環境と島の歴史に、ここ数年来惹かれていたのだ。

私が対馬に行った理由は、かつて「対馬麻」とよばれていた麻布生産の歴史や生産用具に関する情報を得ること。それと、古代に上総国の畔蒜郡から対馬に移住して、阿比留と名乗ったとされる一族に関する伝承について、現地で学ぶことであった。対馬麻の話はまた折を見てということにして、今回は対馬の阿比留一族に関する伝説を紹介しよう。

上総国畔蒜郡は、現在の君津市南東部にあたる小櫃川の中・上流流域にあった郡で、古くは馬来田国（国造の支配域）の一部であった。我が国においては奈良時代の初めの頃に、唐に倣って地名や山河等の表記は漢字二文字化が進むのだが、平安時代に編まれた日本初の漢和辞典『和名類聚抄』では、畔蒜郡の畔蒜を「阿比留」と訓じている。畔蒜郡は、いつ頃かは不明だが望陀郡に吸収されてなくなる不思議な歴史を持つ。しかし畔蒜の痕跡は小櫃川流域に残り、中世には畔蒜荘という荘園として存在していた。

地元ではあまり聞かないが、県内・国内には畔蒜・安蒜・阿蒜なども書く姓がある。元々は居住地や領有した地名をとって姓を名乗るのが一般的なので、彼らもまた畔蒜郡出身か何らかの関係を有する一族と考えるのが自然だろう。対馬の阿比留氏もそのように考えられるが果たしてどうか。



対馬市内には400を超える阿比留氏の電話番号が登録されている（30年ほど前の記録では600を超える阿比留氏がいたという）。私は、阿比留氏が最も集中している、厳原町豆殿地区を訪ねた。豆殿は、島の南西端にある天然の良港で古代には遣隋使も遣唐使も寄港した。対

馬やまねこ空港からレンタカーで約1時間、豆殿は小さな半農半漁の集落である。豆殿の阿比留さんたちは上総を故郷と考えているらしいのだが、残念ながらいつごろ対馬に来たとか、何故そうなったかなどという具体的な言い伝えは聞くことができなかった。

しかし、冒頭にも書いたように、対馬は古代においても国境の島であった。天智2年（663）の白村江の戦を契機として、朝鮮式山城の金田城が築かれた。以来、東国からは多くの防人が送られ海防の任についた。そのような状況で上総の畔蒜の地を故郷とする畔蒜の豪族が渡ったとすればどうであろうか。産出した銀も魅力的だ。対馬は国境ゆえに、韓半島や大陸の諸勢力・海賊などから攻撃されることも多かった。『扶桑略記』は、寛平6年（894）に新羅の賊船による襲撃を伝えている。言うまでもないが、その逆に倭寇も盛んであったようで、韓半島沿岸では倭人の襲撃を恐れていた。古代の対馬はそのような場所であったのだ。平安時代最大の対外危機とされる「刀伊の入寇」は、中国東北地域にあった女真族（刀伊）の海賊が、対馬・壹岐・北九州沿岸を襲撃した事件である。藤原道長が権勢を極めていた頃、寛仁3年（1019）のことであった。この事件では、殺人・拉致・放火などの蛮行があったとされるが、対馬では銀山も襲撃された。

また『対馬記事』という江戸時代の記録によれば、蘇我満智の末裔である比伊別当国津の子が弘仁4年（813）に国司として上総から対馬に渡ったとする記事もあるらしい。

一方、『姓氏家系大事典』では対馬国造であった対馬県直宿禰の末裔ではないかとされ、在来の氏族であるとする説もあるようだ。

いずれにしても、対馬の阿比留氏として確認できる最も古い人物は、阿比留良家である。厳原町豆殿の多久・頭魂神社に伝わる梵鐘に刻まれた銘文に「寛弘5年（1008）阿比留良家が梵鐘を鑄造した」と刻まれている。阿比留氏は、古代から中世にかけて対馬国府在庁の官人として活躍するとともに、神官としても重要な役割を果たした一族である。豆殿では古代から続く亀卜神事を見ることができた。そのこともいづれ紹介したい。

いぐち たかし

一九五六年 和歌山県串本町（本州最南端の町）生まれ
前 袖ヶ浦市郷土博物館館長。専攻は日本考古学。（日本考古学協会会員）
古代上総国望陀郡産のブランド布で、遣唐使によって唐の皇帝に献上されていた「望陀布」とその紡織技術を研究テーマとしている。
現在は、和洋女子大学非常勤講師。

上総自然学校フィールドの希少な生き物たち
第十五回・ヤマアカガエル

詩人 大島 健夫

川原井の谷津田には、二種類のアカガエルがすんでいます。ニホンアカガエルと、ヤマアカガエルです。

ニホンアカガエルはどちらかというと平地を好むのに対し、ヤマアカガエルは名前の通り山地を好みます。この両者が共存できているというのは、川原井の谷津田周辺の環境が、単純ではなく様々な要素を含んでいて複合的なものであることを示しています。

ニホンアカガエルとヤマアカガエルは、見た目もよく似ています。一目で見分けることができるようになったら、あなたも一人前のカエル通です。区別するポイントは背中にあります。両方の目からお尻まで続く、一對の『背側線』が、ニホンアカガエルでは太くてまっすぐなのに対し、ヤマアカガエルでは目の後ろで折れ曲がっており、しかも微妙に不連続なのです。皆様もそこらへんでアカガエルに出会ったら注意してみてください。また、ヤマアカガエルの場合、ニホンアカガエルよりも体が大きくなる傾向があり、時としてヒキガエルほどもあるような、足元にいると思わずギョッとするような、山のヌシみたいなどんでもなく大型の個体がいま



ヤマアカガエルの背側線。

す。

千葉県内では、ニホンアカガエルが北から南までほとんどいなくなり、一方、ヤマアカガエルは県南部の房総丘陵を中心に生息しており、下総地域では見ることができません。川原井においても、ニホンアカガエルがいたるところで見られるのに対し、ヤマアカガエルはふだんは森林でしか見られず、なんとなくすみ分けているようです。

ふだんは、と書いたのは、ヤマアカガエルでも田ん

ぼに積極的に下りてくる季節があるからです。それは早春、というよりもまだほぼ真冬に近い時期です。

1月の末から2月の初頭にかけて、ヤマアカガエルは繁殖行動のために水辺にやってきました。私は川原井のフィールドでこれまでに数回、ヤマアカガエルの繁殖行動のピークを観察しています。それはなかなか壮烈な光景です。警戒心が強いはずのヤマアカガエルも、白昼堂々と大挙してやってくるのです。いったいどこにこんなにたくさんいたんだろうと思うほどのヤマアカガエルたちが、田んぼや浅いため池の周りで啼きかわし（ヤマアカガエルは、前脚の付け根をふくらませて啼く）、♂が♀に後ろから抱きつく『抱接』を行います。人間の肉眼ですらその姿がはっきりわかるのですから、これはもう全く身を隠していないのも同じことです。



繁殖行動のため啼くヤマアカガエル。

夜になると、その数はさらに多くなり、啼き声は周囲にとどろき渡ります。これは視点を変えれば、天敵たちに、自分たちを食べにくれと呼んでいるようなものです。実際、繁殖期のカエルを餌資源にしている生き物は大勢います。哺乳類のイタチやアライグマ、サギなどの鳥類。自動カメラを仕掛けてみますと、いろんな生き物が入れかわり立ちかわり現れてはカエルを襲っています。捕食動物にとっては、年に一度のごちそうタイムであるに違いありません。カエルたちにとって、子孫を残すというよりは、外敵の目を避けることよりも優先するのでしょうか。少なくともはつきりしているのは、この膨大な数のカエルたちの存在が、生態系ピラミッドにおいて、もつと上位に位置している数多くの生き物を養っているという事実です。

誰にも食べられずに産卵することができれば、1頭の♀のヤマアカガエルは、おおよそ1000個以上の卵を産みます。卵は寒天質のボール状で、寄り集まった形の『卵塊』を形成し、2〜3週間で孵化して小さ

なオタマジャクシとなりま



ヤマアカガエルの卵塊。

す。オタマジャクシもまた、水生昆虫などに捕食されまくりませんが、そこを生き残ると夏までにはカエルの姿となつて上陸し、2年ほどで成熟して繁殖に参加します。そう考えると、早春の「蛙合戦」にやってくるヤマアカガエルたちは、その全員が、苛酷な競争を潜り抜けたカエル界のスーパーエリートです。前述したような巨大な体をしたカエルは、その中でも命を長らえ続けた、強靱な心身と無尽蔵の運を持ったものであることでしょう。

ほんのわずかな確率を自分のものとして成長したカエルたちが、年に一度、自分の生命そのものを賭けて子孫を残すための勝負に出る。それがカエルの繁殖行動です。その狂乱の祭りは、多くの生命をこの世から消し、次代の生命を生み出し、また他の生命に栄養をもたらします。そして、川原井の谷津田は、そうした生命の循環によって新しい季節へと進んでゆくのです。

ヤマアカガエル

Rana ornativentris

無尾目アカガエル科

千葉県レッドリスト・C (要保護生物)

大島健夫

詩人。一九七四年千葉県生まれ。詩の朗読の日本選手権・ポエトリースラムジャパン二〇一六優勝。パリで開催されたポエトリースラムW杯で準決勝進出。一方でネイチャーガイドとしても活動。千葉市野鳥の会会長、日本トンボ学会会員。環境省希少野生動物植物種保存推進員。近著「そなただったのか！里山のいきもの百物語」(メイツ出版)好評発売中。

新年御祈禱のご案内

新年の初詣・御祈禱に真光寺へお詣りください。

【初詣とは】

年の一番初めにお寺や神社にお詣りすること。これまでの感謝報告とその年の万福多幸を願います。

【御祈禱とは】

日本人は古来より人生の節目にご祈禱をしてきました。「安産祈願」に始まり「初参り」「七五三」、また受験、引っ越しや転職などのたびに神仏に報告し、足元を見つめながらより良い未来を祈ってきたのです。当山に於いても、新しい年を迎えて「この年が少しでも良い一年になるように」と新年のご祈禱に来られる方も多くなってまいりました。

三が日は、薬師如来の御宝前にて新年の厄除け・安全祈願・所願成就の祈禱法要を厳修いたします。ご参列の方は事前にご希望日時のご予約をお願いいたします。代表の方のお名前と人数、①～⑱までの願意をお電話などでお知らせください。お名前と願意を記した木製のご祈禱札を作成し、当日授与いたします。

祈禱法要はどなたでもご参加になれますが、事前申込のない場合、木製のご祈禱札はご用意できません。また、人数によりお待たせすることがございますので予めご承知おきください。

■受付日時 令和6年1月1日～3日 午前9時～午後4時

※3日は正午まで ※法要は30分毎

■法要時間 約15分

■費用 3,000円～10,000円程度のお布施

■願意 木札に書き入れます。下記2つまでお選びいただけます。※2名まで連名可能

- ①家内安全 ②諸災消除 ③所願成就 ④如意吉祥 ⑤交通安全 ⑥商売繁盛 ⑦厄除守護
 ⑧身体健全 ⑨当病平癒 ⑩良縁祈願 ⑪安産祈願 ⑫合格祈願 ⑬身心堅固 ⑭学業増進
 ⑮五穀豊穡 ⑯千客万来 ⑰社運隆昌 ⑱風調雨順 ⑲疫病退散



百	五十	三十	二十	二十	十七	十三	七	三	一
回	回	回	回	回	回	回	回	回	周
忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌
大	昭	昭	平	平	平	平	平	平	令
正	和	和	成	成	成	成	成	成	和
十	五	六	五	十	十	二	三	一	六
五	十	十	年	一	一	十	十	十	年
年	一	四年	元	年	年	一	一	一	年
	年	年	年						
		・							
		平							
		成							
		元							
		年							

行事予定

真光寺と駅、バスターミナル間の送迎もありますのでご希望の方は裏表紙をご参照ください。

修正会

《檀信徒》

日時：1月3日（金）14時より
檀信徒皆様の一年の安全、諸願成就を祈願し、ご祈祷法要を行います。

山門春彼岸法要

《檀信徒》

日時：3月20日（木祝）14時より
春の彼岸供養会を行います。

縁の会春彼岸法会

《縁の会会員》

日時：3月20日（木祝）11時より
縁の会の春彼岸法要を行います。
昼食（お弁当）のご用意をいたしますので、参列申込みの際にお弁当の要・不要をお伝え下さい。
欠席の場合でも、塔婆供養を行うことも出来ます。
※要予約

戒名を考える会

《縁の会会員 特に未授戒の方》

日時：3月6日（木）
午前11時より午後2時半頃
参加費：3,000円（昼食付）
定員：10名
午前中は戒名の意味や意義、仏教知識について学びます。精進料理の昼食をはさみ午後は任職といっしょに、漢和辞典を引きながら実際にご自身の戒名を考えます。
※要予約
※持ち物：漢和辞典

七日法要

《縁の会会員》

日時：1月7日（火）11時より授戒式・月例供養、昼食（餅つき）午後は新年の祈祷法要
2月7日（金）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
3月7日（金）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
4月7日（月）11時より授戒式・月例供養、昼食（お弁当）午後は植樹祭
植樹祭は1年でこの日だけご自身の区画に植樹が出来る日です。植木はお寺でご準備いたしますので、ご希望の樹種を選び区画内にお植えください。
5月7日（水）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
※要予約
※午前、午後のみのお出席もできます。

ご詠歌練習日

《どなたでも参加できます》

ご詠歌はお釈迦様、お祖師様の教えや、亡き人を偲ぶ心を詞に表し、音楽に乗せてお唱えするものです。初めての方にも丁寧にご指導いたします。

参加費：無料

2月 11日・25日	5月 13日・27日
3月 11日・25日	6月 10日・25日
4月 8日・22日	7月 8日・22日

時間：15時～16時半

坐禅会

《どなたでも参加できます》

日時：毎月 第2・第4土曜日
15時00分～16時30分

布施：500円程度

初心者の方も気軽にご参加下さい。初めての方は坐り方指導をいたしますので、14時半までにお越し下さい。

仏像彫刻体験教室

《どなたでも参加できます》

日時：毎月 第1・第3水曜日
13時30分～16時30分

費用：1回4,000円

お申し込みは仏師 鈴木先生まで（TEL. 0438-63-2848）

ラインご利用いただけます

ご祈祷、ご法事、各行事、塔婆、住所変更等のお申し込みお問い合わせは真光寺LINEでもお申し込み頂けます。

ライン登録用QRコード➡



行事予定

精進料理と聖典講読の会 《どなたでも参加できます》

日時：1月30日(木) | 3月12日(水)
2月28日(金) | 4月21日(月)

午前11時～午後2時30分

参加費：3,000円程度 昼食付(精進料理)

午前11時より住職によるお経や仏教解説を行います。精進料理の昼食をはさみ、午後は坐禅や写経を行います。

※要予約



写経会 《どなたでも参加できます》

日時：1月30日(木) | 3月12日(水)
2月28日(金) | 4月21日(月)

13時00分～14時30分

布施：1000円程度

写経は祈願・供養、精神を落ち着けるため、お経を書写するものです。夕照庵(小書院)にテーブルと椅子を置きました。ゆったりとした静かな空間で、心を整えて写経ができます。

※道具は用意してありますが、ご持参されても結構です。

※要予約



送迎のご案内【午前】

- 電車の方
 - ・上り電車の方(君津発千葉行き)
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時05分着
 - ・下り電車の方(快速君津行き)
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時10分着

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT 9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT 9時46分着
- ・川崎発9時15分→袖ヶ浦BT10時17分着
- ・新宿発8時30分→袖ヶ浦BT 9時35分着
- ・東京発9時10分→袖ヶ浦BT10時05分着

【平日】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT 9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT 9時46分着
- ・川崎発8時30分→袖ヶ浦BT 9時27分着
- ・新宿発8時30分→袖ヶ浦BT 9時30分着
- ・東京発9時10分→袖ヶ浦BT10時05分着

送迎のご案内【午後】

- 電車の方
 - ・上り電車の方(快速逗子行き)
JR内房線「袖ヶ浦駅」13時05分着
 - ・下り電車の方(千葉駅発木更津行き)
JR内房線「袖ヶ浦駅」12時50分着

□バスの方

※新宿発、土日祝の午後の送迎は高速バスが停車しなくなったため無くなりました。

【土日祝】

- ・品川発12時00分→袖ヶ浦BT12時52分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発11時30分→袖ヶ浦BT12時32分着
- ・~~新宿発00時00分→袖ヶ浦BT00時00分着~~
- ・東京発11時40分→袖ヶ浦BT12時35分着

【平日】

- ・品川発11時50分→袖ヶ浦BT12時42分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発12時00分→袖ヶ浦BT13時02分着
- ・新宿発11時30分→袖ヶ浦BT12時35分着
- ・東京発11時40分→袖ヶ浦BT12時35分着

各種お申込み連絡先

真光寺 〒299-0201 千葉県袖ヶ浦市川原井634

TEL. 0438-75-7414 (代表) / 0438-75-7365 (縁の会事務局) FAX. 0438-75-7630

Email ennokai@shinko-ji.jp (縁の会) / satoyama@shinko-ji.jp (上総自然学校)



SHINKOJI.ZEN

Instagram始めました!